

「チームとしての学校」 スクール・サポート・スタッフ配置事業

義務教育課

1 現状・課題

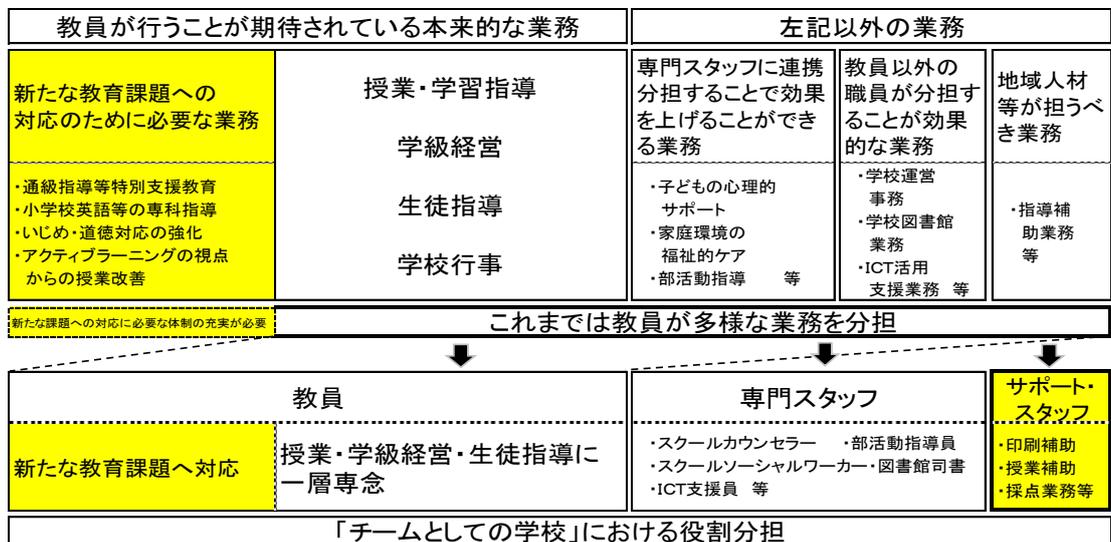
教職員の働き方に関する国の調査によると、一般教諭の1か月当たりの学内総勤務時間は平成18年度と比較して17時間56分（小学校）・20時間48分（中学校）増加している。増加の主因は小・中ともに授業、学年・学級経営等であるが、これらの本来業務のほかに、教員は部活動、授業補助、諸事務、保護者・地域対応といった多様な業務も一定時間担っており（1月あたり小学校17時間40分、中学校31時間00分）教員の長時間勤務の一因となっている。今後、学習指導要領の改定に伴う授業改善の取組や、様々な家庭状況、不登校や発達障がいへの対応等、教員に求められる職務は質・量ともに高まっており、教職員が本来業務に注力できる体制づくりのための人的支援が求められている。

2 事業目的

授業以外の諸業務を補助的に行うサポート・スタッフを学校に配置し、教員の負担軽減を図ることで、教員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制をつくる。

3 事業概要

(1) サポート・スタッフの役割



(2) 実施方法

- ① 概ね通常学級数18以上の小・中学校を配置対象とする。
 （平成30年度予定 小学校：79/364校 中学校：23/185校）
- ② 配置を希望する学校は、サポート・スタッフを活用した業務改善計画を提出する。
- ③ 配置校に指定された学校には非常勤職員を1名配置する。
- ④ 配置校は、中間報告書および実施報告書を提出する。

4 平成30年度予算額 7180万8千円